

びろっば

Vol. 450 2024. 1

日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会
中国四国支部学術大会

表紙の写真



年頭所感

MC〈メディカルコントロール〉委員会 設置

心臓血管ウエットラボ 開催

MVP受賞者 発表

第62回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会
中国四国支部学術大会 連絡協議会



近森病院 近森リハビリテーション病院 近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

2月12日(月)は通常診療を行います。

年頭所感

少子化の巨大津波が やってきた

社会医療法人 近森会
理事長

近森 正幸



はじめに

昨年、高知の地域医療に衝撃を与えた出来事は、少子化の巨大津波が来襲し、若手スタッフ、特に看護師の応募が急減したことです。

時代が大きく変わり経営戦略を大きく転換する時に、イケイケどんどんの右肩上がりの成功体験しか持っていない私が理事長、院長を続けることは近森にとってよくないと考え、昨年1月には川井和哉院長に就任していただき、医師の働き方改革や乳腺センターの設立、化学療法センターの拡充にあたっていただきました。今年3月末には理事長を退任し、4月からは入江博之新理事長に就任していただくことになりました。お二人は力を合わせ20年間で近森のハートセンターを日本有数のハートセンターに育て上げた実力者ですので、新しい時代のリーダーとして力強く近森を率いてくださると信じています。

高齢化の津波

高齢化の津波は高知市に來襲する津波のように浦戸湾の入り口が狭いため、ゆっくりと潮が満ちるような津波になります。時間的余裕があったため、充分に高齢化に対応できたように思います。

高齢者の特徴は廃用と低栄養、多臓器不全であることから、35年前から近森

リハビリテーション病院を開設し、回復期リハビリテーション病棟の診療報酬を創設、リハビリの充実に努めてきました。20年前から栄養サポートチームを立ち上げ、管理栄養士を増員し病棟に常駐することで、多職種による多数精鋭の病棟常駐型チーム医療を展開してきました。さらには多くの優秀な先生方やスタッフが集まってくださり医療の質が向上し、多臓器不全などの重症患者にも対応できるようになり、高知県の人口が減少する中、救命救急や地域の先生方のご紹介で多くの患者さんを受け入れてきました。

少子化の巨大津波

少子化の津波は東日本大震災で岩手県沿岸で確認された40mを超す巨大津波で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり思ったより数年早く来襲し、短期間に急激な変化が起こっています。さらにはウクライナ戦争の影響で光熱費や食材費ばかりでなく、診療材料費も高騰し、人手不足による人件費も急増、診療報酬という公定価格で縛られている病院はこの数年間で大変な変化が起こることが考えられます。

厳しい時代に売上増へ、 そんなスタッフの頑張りに報いて

そんな厳しい時代でも、先生方やスタッフの頑張りで年々売上も上がり、コロナの補助金がなくなった現在でも十分な収益を上げています。私達は現状に甘んじることなく、この問題に正面から取り組み、近森の3病院の機能の集約化やスタッフが働きやすい職場づくりに全力を挙げて取り組もうとしています。

3病院の機能の集約化

スタッフが誇りを持って働ける職場環境を作るために昨年から検討を重ね、3病院の機能の集約化が今年からスタートします。

急性期の近森病院は、地域包括ケア病棟を一般急性期病棟に転換し、悪性疾患の手術を増やすことで急性期充実体制加算の算定を視野に入れるとともに、紹介受診重点医療機関にも指定され、真の急性期病院に機能を絞り込むことになりました。

近森オルソリハビリテーション病院は、整形外科の回復期リハ病棟を返上し、整形外科と内科の患者さんを受け入れ

る地域包括ケア病棟としてポストアキュート、サブアキュート、在宅サポートの3機能を充実していきます。

近森リハビリテーション病院は脳卒中、運動器の全館回復期リハビリテーション病棟として今まで以上に真にリハビリが必要な患者さんに対応していきます。

働きやすい職場づくりを目指して

まず安心していただきたいことは、近森は病棟常駐型チーム医療で豊富な専門性の高いスタッフを確保していることから、看護師が多少減少しても業務に支障がないだけの規程以上のスタッフを確保していることです。

職員アンケートの結果をもとに、子育て世代の支援を充実すること、物価高に対応する職員の待遇の改善も可能な限り進めていきます。

職員が働きやすい職場づくりを目指して、DX(デジタル化)の導入によるスムーズな情報共有を行うとともに、業務の徹底した見直しを行い、効率的でやりがいのある職場環境づくりを目指します。さらには化学療法センターの拡充整備を行い、外来手術などの治療の選択肢を拡げていきます。

現在、若い人材の県外流出が増加し、高知県知事選挙、高知市市長選挙でも課題として取り上げられていましたが、それを防ぎ若い人達が高知に残りたいと思わせる職場、病院に変わろうとしています。

さいごに

急性期の近森病院、回復期リハの近森リハビリテーション病院、地域包括ケアの近森オルソリハビリテーション病院は、高知県民、市民にとってなくてはならない病院になっています。「高知の地域医療の最後の砦」としていつまでもあり続けるために、私達は自信と誇りをもって働ける職場づくりを病院一丸となって推進していきますので、どうかよろしくお願ひ致します。



近森病院 MC 委員会の設置 及び 〈Medical Control〉

院内救急救命士の 処置範囲の拡大について

11月1日
開始



近森病院 救命救急センター
センター長
根岸 正敏 ねぎし まさとし

「病院に搬送されるまで」の制限下で

当院では、2007年のドクターカー運用開始とともに、高知県内で初めて病院救急救命士を採用し、診療の補助を行ってきました。

一方で、病院前救護活動の重要性から1991年に制定された救急救命士法では、その活動場所、つまり救急救命処置が行えるのは、「病院又は診療所に搬送されるまでの間」とされてきたため、その活動には大きな制限がありました。

体制整備と活動範囲の拡大

このたび2021年9月に救急救命士法が改正され、活動場所が「重度傷病者が病院若しくは診療所に到着し当該病院若しくは診療所に入院するまでの間（当該重度傷病者が入院しない場合は、病院又は診療所に到着し当該病院又は診療所に滞在している間）以下同じ」に拡大されました。

この改正では、活動開始の条件として、病院内にMC（メディカルコントロール）委員会を立ち上げること、医師との連携、医療安全、感染対策など必須の講習を受講することがあります。当院では7名の救急救命士が受講を終えており、11月1日から、院内での救急救命処置を開始することになりました。その中には、包括的な指示のもと、気管内・口腔内の吸引、バグマスクによる補助換気、血糖測定などの28項目が含まれています。

特定行為までの拡大を視野に

今後は県のMC協議会とも連携を図り、静脈路確保、輸液、エピネフリンの投与などの医師の具体的指示が必要な特定行為にまで拡大していきたいと思えます。

また、MC委員会では処置拡大に伴う事後検証などの振り返りも行い、安全性向上に努めていきます。

今回の法改正による救急救命士の処置範囲拡大、また看護師の特定行為など、医療界での働き方改革、タスクシフトはさらに進むと思われますので、職員一丸となって、県民の皆様へ安全、安心な医療を提供したいと考えています。



▲ 当院で働く救急救命士たち



診療技術部門に「救急救命士科」を設置

これまで看護部門に所属していた救急救命士は「救急救命士科」として部署が独立しました。



移転の お知らせ

化学療法センターが 北館に移転オープン

2024年
1月29日～

現在、近森病院外来センター6階にある「点滴センター」が、北館2階に「化学療法センター」として移転します。新しいセンターの詳細は3月号でご紹介します。



中国四国支部学術大会

薬学が切り拓く新時代 Society 5.0

— 薬業連携の進展と評価 —

2023年

10月28日・29日

会場／

高知県立大学永国寺キャンパス

高知城ホール

近森病院附属看護学校



実行委員長／
近森会グループ
薬剤部 部長

筒井 由佳

つつい ゆか

このたび表題の学術大会が高知県で開催され、1,053名の参加者により盛会のうちに終了いたしました。

教育機関、保険薬局、病院が連携(薬業連携)を

「薬学が切り拓く新時代 Society 5.0 - 薬業連携の進展と評価 -」をテーマに、特別講演やシンポジウム、中国・四国地方の薬学に携わる研究者、医療従事者、企業関係者等による研究発表があり、現地開催のメリットを生かした活発な討論が行われた2日間でした。

2007年高知開催より三団体合同で本学術大会は開催されてきました。テーマにある薬業連携は三団体の連携とともに教育機関、保険薬局、病院の連携も表しており、先進的な知識と技術を育て地域医療に役立てるためにも三団体が一同に集う本学術大会開催の意義は大変大きいものとなっています。

本大会で感じた新しいうねり

講演や発表では、「医療DX」は特別なことではなく、薬剤師が医療の質向上の一翼を担うために「身近でデジタル技術が活用」されていること、病院では病棟や外来、手術室など「薬剤師活躍の場が広がっている」ことが示され印象的でした。

また新型コロナウイルス感染症を経験し4年ぶりの開催となる連絡協議会(懇親会)は、若い方の参加も多く、積極的な情報交換により連携強化が図られていました。今大会に参加された多くの皆様が柔軟な発想を得て、未来社会への一歩を踏み出していただくことを期待しています。

高知の青空のもと盛会裏に終了

大会運営に当たり不行き届きの点多々あったかと思いますが、高知らしい青空の広がる好天に恵まれ無事終了することができ、大会長として安堵しています。開催にあたりご尽力いただきました関係者の方々にこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。



1



2



3



4



5



6

1. 連絡協議会で実行委員長として挨拶をする筒井部長
2. 特別講演3・近森正幸理事長「みんながハッピーないきいきとやりがいをもって働くチーム医療～薬剤師は薬剤師の視点で患者を診て、薬学的に判断し、介入しよう!!～」
3. ランチョンセミナー7・川井和哉院長「日本の抗血栓療法を今一度せんたくしたいし申候」
- 4・5. 近森会グループからは一般演題として5演題、ポスター発表で4演題を発表
6. スタッフ・発表者として32名が参加、42名の近森病院附属看護学校の学生さんにもボランティアで参加、お手伝いいただきました。



筒井部長が表彰されました!

高知県から、薬剤師として県内で果たした功績を認められ表彰を受けました。



第9回 心臓血管ウエットラボ

～地域医療講演会実習編～

2023年 11/26(日)

4年ぶりの開催

臨床工学部
臨床工学技士
山中 智弘
やまなか ともひろ



第9回的心臓血管ウエットラボは、新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりの開催となりました。今回は感染予防のため、受講者数を50名に縮小しての開催となりましたが、その分、一人一人にとって濃密な実習となりました。

実習は、豚の心臓の解剖・心臓手術・心臓カテーテル治療を中心に13科目10ブースあり、今回から新たな科目として、Mitra ClipやWATCHMANが加わり、最新の治療を体験できるカリキュラムとなりました。

受講者は興味津々に、インストラクターは教えることの楽しさや知識の再構築に一役買っており、とても有意義な勉強の場になっていました。ウエットラボだからこそ経験できる、学びの多い会となり、参加くださったインストラクターの先生方、企業、運営スタッフの方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。この貴重な経験を、次回に繋げたいと思います。



▲ 豚の心臓を使って実際に手技するCABG(右)、弁置換術(左)は毎回人気。



▲ 新たに加わったMitraClip(左)、WATCHMAN(右)。



▲ TAVI



▲ 病理



参加者総数 122名

インストラクター:21名、スタッフ:51名、
受講者:(院内)34名・(院外)16名

満足度 ※ 100%

※「有意義な実習でしたか?」に対して、「そうだ」「どちらかといえばそうだ」と答えた方(回答50名)



海外出張報告

最新の知見や世界レベルの技術の習得のため、それぞれ海外出張へ行ってきました。

第37回

ヨーロッパ胸部心臓外科学会 (EACTS)

2023年10月4~8日 / オーストリア・ウィーン



近森会 副理事長
兼 近森病院 心臓血管外科 主任部長
入江 博之 いろえ ひろゆき

ドイツ医学といえばウィーン

学会で受け取った「今の常識にとらわれず、次のステップに進め」のメッセージ

第37回ヨーロッパ胸部心臓外科学会(EACTS)がオーストリア・ウィーンで開催され、参加しました。現地での大規模開催はコロナのために久しぶりでした。様々な専門分野の発表がありましたが、最も印象に残ったのはDr. Patrick Perierの大会長講演でした。通常、大会長講演はご自身の過去の成果を中心にして、学会への貢献を語られることが多いものです。しかし、彼は全く違っていました。話の多くは過去の慣習にとらわれずに革新的治療に成功した物語のピックアップで、「今の常識にとらわれず、次のステップに進め」という強烈なメッセージでした。

「ドイツ医学はドイツじゃない」という衝撃

今回は高度に専門的な学会の内容よりも、ウィーン大学医学部附属の医学歴史博物館についてお話ししたいと思います。

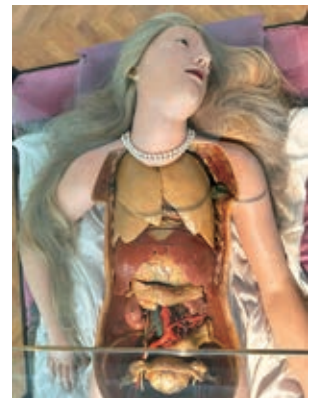
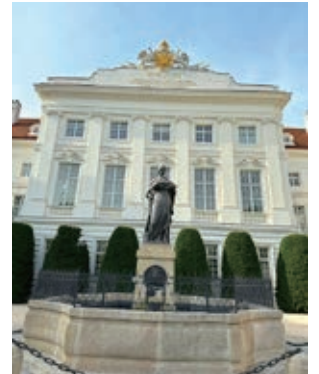
時差ぼけを修正するために到着翌日にウォーキングツアーに参加したところ、ガイドさんに「ドイツ医学というとドイツと思われているようですが、実はウィーンの事を指しています」と言われ、衝撃を受けました。ガイドさんによると、医学発展の過程で大きく貢献したのは現在のドイツではなく、当時ドイツ語を話す国でもっとも繁栄していたオーストリアだと言うのです。

確かに歴史を見ると、神聖ローマ帝国からハプスブルク家の繁栄により安定した政権下で学問が発達したものと思われます。1365年にルドルフ

4世により、ウィーン大学医学部が作られました。これは世界で最も古い医学校の一つです。ウィーン総合病院を介し各種の革新的な医学研究、また臨床応用がなされてきました。例えば血液型を発見したランドシュタイナー、精神疾患を解析したフロイド、また胃癌の手術を初めて行い成功させたビルロートなど、医学教育に関わった方であれば必ず名前を聞いたことがあると思います。

ドイツ(ウィーン)医学の歴史を集めた「Josephinum」博物館

その医学史をまとめた博物館が2022年9月にリニューアルオープンしたと聞き、学会のランチタイムに行ってみました。この医学歴史博物館は、1785年にヨーゼフ2世の命令により作られたとのこと。彼の名前をとって「ヨーゼフィウム」と呼ばれています。ウィーン大学医学部(現在はウィーン医科大学)の隣にあります。2階にはワックスで作られた精緻な生体解剖がずらりと並び、1階には昔の書物や様々な医療器具などが展示されていました。その中には現在とほぼ変わらないような手術器具が沢山あり、特に印象的だったのは、ビルロート博士と、その弟子達の系譜でした。ビルロートは1881年に胃癌に対する胃切術を初めて施行して成功させ、現在でもその手術が使われている「外科学の天才」と呼ばれる方です。ビルロートから始まり、世界に広がった外科医の系譜なども残されていました。また、当時最先端であった装置や手術器も展示されていました。短時間の訪問でありましたが、18世紀から20世紀にかけてウィーンが医学の中心であったことが実感される訪問となりました。



大会で知り合いとなった海外からの参加者:
入江の向かいがDr. 高梨(川崎幸病院)、
斜め向かいがDr. Fattouch
(僧帽弁形成術で有名なイタリアの心臓外科医)、
最前列左がDr. Casula
(London Imperial College心臓外科部長)

写真 上より ▶

- ヨーゼフィウム全景
- ワックスでできた精密人体復元モデル
- 1900年代初めに世界的流行となったスペイン風邪の際に使用された金属製マスク
- 当時の輸血装置



CSI ASIA-PACIFIC 2023

2023年10月6~8日 / タイ・バンコク



近森病院 循環器内科 科長 菅根 裕紀 すがね ひろき

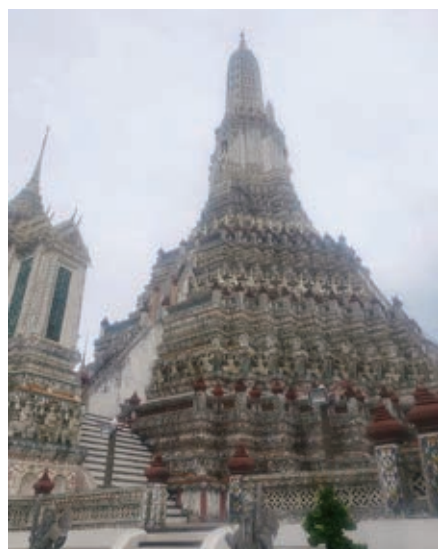
久しぶりの海外

演題 『Challenging case on mitral valve interventions』

構造的な心疾患に対するカテーテル治療(TAVI, MitraClipなど)の国際学会(CSI)で、タイに行ってきました。新型コロナウイルス感染症が流行後、なかなか機会も無く久々の海外でした。

旅の思い出

タイは10月とはいえ暑いこともあり、マスクをつけている人はほとんどおらず、時代の変化を感じました。学会開始前に寺院を巡ってきたのですが、朝なのに30℃を超える



気温があり、お寺の入り口でもらえるミネラルウォーター(濁流で色んなものが流入して、綺麗とはあまり言えないチャオプラヤー川から作られている)がなければ倒れるところでした。久しぶりに、水を「尊い味がする」と思いました。

国際学会で最新の情報を

担当はMitraClip(僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療)のセッションだったのですが、同じアジアでも使えるデバイスや患者背景に大きな違いがあり、治療に対する考え方もだいぶ違って新鮮でした。国内外の同世代の方々と交流を深めることができ、短期間で多くの情報を得ることができました。

今後も、国内外を含めて最新の情報を得つつ、より良い治療を提供できるよう研鑽を重ねて参りたいと思います。

その後、やっぱりお腹を壊しましたが、これに懲りずに、また東南アジアに行きたいと思います。



Mercy Medical Center・NYU Langone Health

2023年10月9~20日 / アメリカ・ボルチモア



USA病院・手術見学の報告

近森病院 整形外科 主任部長 西井 幸信 にしい ゆきのぶ



Mercy Medical Centerにて、手前左がLew Schon教授、筆者は右から2人目

10月9日から20日までアメリカ合衆国メリーランド州のボルチモアにあるMercy Medical Centerの病院見学およびFoot and ankle society(足の外科学会)のLew Schon教授の手術見学に行ってきました。

新しいコンセプトの人工足関節を開発した Lew Schon教授の手術を見学

Lew Schon教授とは、2019年に開催された足の外科学会学術集会后に、外側進入による人工足関節置換術のセミナーで初めてお会いし、足関節における腓骨の重要性について同じ考えを持つ「save the fibula club」として熱く議論を交わしました。

その後、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックにより学会等で直接お会いする機会がありませんでしたが、2023年の日本創外固定・四肢



第1回 アジア嚥下学会 (ADS:Asian Dysphagia Society) 国際カンファレンス

2023年11月9～11日 / 韓国・水原市

ブリッジ空嚥下を国際学会で初発表

近森リハビリテーション病院 青山 圭
リハビリテーション科 科長 あおやま けい

ポスター発表演題

『Bridge Swallowing Exercise for a Patient with esophageal achalasia; A Case Report』

第1回アジア嚥下学会国際カンファレンスで、嚥下障害診療における食道期(食塊が蠕動運動によって、食道から胃へ運ばれている段階)の新たな訓練である、ブリッジ空嚥下のポスター発表を行いました。

ポスターに興味を持った医師を捕まえ、その場で発表

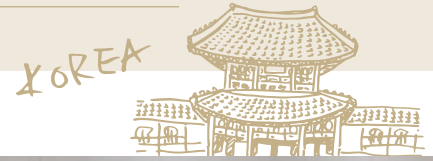
指導医である岐阜大学脳神経内科の國枝顕二郎先生と前日まで準備をして臨んだのですが、ポスター発表の大多数がexhibition only(展示のみ)となっており、きちんと発表ができなかった点は残念でした。しかし、ポスターを見て興味を持ってくださる先生方も多く、その場で捕まえてブリッジ空嚥下訓練の概要を発表するように切り替えました。英語での質問にはなかなか答えられず苦労しましたが、良いアピールができました。

韓国ではリハ科が人気!

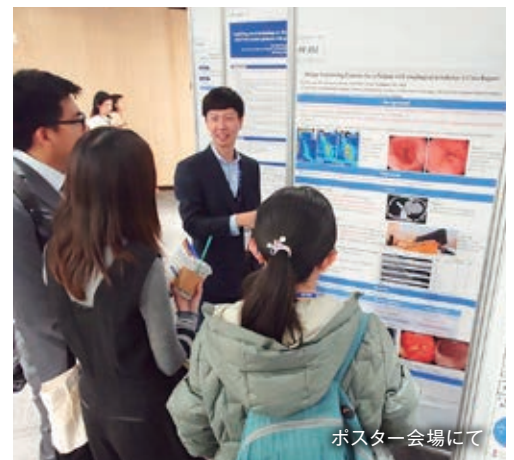
また学会期間中に開催されたGala dinner(祭典の日の晩餐)では、韓国のリハ科医と同じテーブルになり、色々情報交換ができました。特に印象に残っているのは、韓国ではリハ科は人気で、competitionをして選抜されるということと、インターン(日本でいう初期研修期間)中に必ず嚥下障害を学ぶようになっていることです。

初めて国際学会に参加してみて、視野が広がる貴重な経験をさせていただきました。観光もできて充実した韓国出張でしたが、帰りに立ち寄ったカジノでは負けてしまいましたので、リベンジしたいです。

観光地である水原華城にて、岐阜大学國枝先生(右)と。▶



dinnerで韓国のリハ科の先生方と(筆者:左から2人目)



ポスター会場にて



➤ 再建学会学術集会での講演に際してアテンドをさせていただきました。Lew Schon教授は新しいコンセプトの人工足関節を開発された方で、今回、その手術見学が訪米の主な目的でした。ボルチモアではご自宅にホームステイをさせていただき、日々の外来診療、人工足関節以外の足の外科手術も含めて見学しました。

また、月に数回ニューヨークのNYU Langone Healthでも外来診療、手術をされており、病院見学に加えて同院のチーフであり同じく足の外科学会の中心メンバーであるJG Kennedy先生の手術も見学する機会を得ました。Johns Hopkins Universityを含めたアメリカ足の外科の先生との症例検討ミーティングにも参加し大変勉強になりました。

今後の診療に活かす

アメリカと日本では社会保険制度が大きく異なっており、靴を含めた足部の生活習慣も異なりますが、アメリカ足の外科の現状についても学ぶことができ、今後の診療において大いに役立つことと思います。

今回の病院・手術見学を許可していただきありがとうございました。留守中、日常業務を頑張ってくれた当科のスタッフにも深く感謝いたします。



NYU Langone Healthにて、筆者の隣がJG Kennedy先生

講演会

HOCM(閉塞性肥大型心筋症)に関する外科治療 (2023年10月27日)

近森病院 心臓血管外科 部長 手嶋 英樹 てしま ひでき

琉球大学の古川浩二郎教授に「HOCMに関する外科治療」を、ガイドライン制作班の北岡教授主催研究会前にもかかわらずご講演いただきました。

講演では歴史的背景でMorrow先生の事や、特に収縮期僧帽弁前方運動(systolic anterior movement:SAM)の病態、分類別の解説、CTから解剖を念入りに確認し切除していく基本的戦略、拡大切除及び乳頭筋切除などkey pointをお教えいただきました。この診断治療も専門性と共にチーム体制が重要と示されており、VAD(植込型補助人工心臓)や心移植は当院では実施できませんが、変化にならない日々是ながしかのさまざまな医療に即座に対応できるように、研鑽を積み邁進しなければと再認識しました。私も2023年は九州の教授3人に会え、チカラ及びませんが志はつなげたいです!



左より、琉球大学大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座 古川浩二郎教授、安藤美月助教、筆者



近森病院 臨床栄養部

がん治療とたんぱく質(2回目)

近森病院 臨床栄養部 管理栄養士
田部 大樹 たべ だいき



前回は、たんぱく質の「量」でしたが今回は「内容」です。

たんぱく質には、主に動物性と植物性があります。健常な男性を対象とした、がんとたんぱく質の「内容」に関する海外の研究報告によると、たんぱく質を80~100g程度摂取した人は、がんの死亡リスクが低いのですが、そのうち動物性たんぱく質の摂取割合が多い人は、逆に死亡リスクが上昇しました。そのため、がんの罹患前には、たんぱく質の増量を目的として牛肉や豚肉の摂取量を増やさない方が良いと思われます。

しかし、がん罹患後は「痩せやすい」問題と向き合う必要があります。特に筋肉量の減少を呈しやすいため、動物性たんぱく質の摂取をある程度確保する必要性が指摘されています。その目安は1日の摂取たんぱく質のうち、動物性たんぱく質が65%程度とされています。

具体的には、1食は魚中心、1食は肉中心、残り1食で足りないたんぱく質を大豆で補うと達成しやすいと思います。上手にたんぱく質を摂るためには1日の中で摂取する頻度を決めて献立を考えてみることも大切だと思います。

● 健康時

動物性たんぱく質の摂取割合が多い人は、死亡リスクが上昇

死亡
リスク
UP

● がん罹患後

がんになると痩せやすい

動物性たんぱく質もある程度必要



職員対象

院内・集団 歯科健診

2023年11月30日

近森会健康保険組合

歯周病は糖尿病や動脈硬化など全身の健康にも大きく関係しています。

職員の健康増進のため、希望者は歯科健診を無料で受けることができます。

39名
実施



執筆掲載

掲載誌

スタッフを支えるICUの環境とデザイン

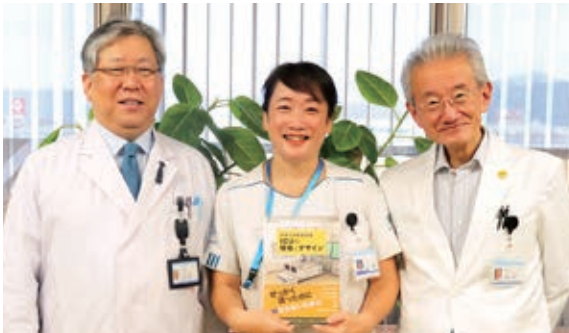
(出版:ヴェクソンインターナショナル株式会社、監修:道又 元裕(著))

※当誌のうち、「スーパーナースでなくても良い仕事ができるICUを作ろう」を担当執筆しました。

チームで働ける環境づくり

近森病院 集中治療センター シニア看護師長

山脇 寛子 やまわき ひろこ



今回、近森理事長、入江副理事長と共に執筆の機会を得て、チームとして働けるICUの環境づくりについて考えました。

モニターを病室・ステーションだけでなく病室外にも吊り下げ、通りかかるスタッフ全員が患者さんを観察しやすい工夫や、ウォッチルームで臨床工学技士がモニターを監視し、医師や看護師以外もアラーム対応をするなど、多職種で治療・ケアを行なっている当院の環境を紹介しています。

改築後は新しくなったICUの個室の多さ(10床)に戸惑いましたが、近年、新型コロナウイルス感染症が流行したことで、個室のニーズは高くなっています。今後とも時代に合わせて環境を変化させ対応していきたいと思います。

◀左より、入江博之副理事長(集中治療センター長)、筆者、近森正幸理事長



シリーズイメージキャラクター
モリンちゃん

すまいる♥ナース通信

認定看護師

ほっとひと息つける場所

近森病院 看護部 主任

皮膚・排泄ケア特定認定看護師

安松 和美

やすまつ かずみ

ストーマ(人工肛門や人工膀胱)を造設された方が、退院した後も心配事が少なく快適な生活を送れるようにお手伝いをさせていただきます。

ストーマを造設する理由は様々ですが、排泄経路の変更を余儀なくされるストーマ造設術は精神的苦痛がとても大きい手術です。入院中はストーマケアの練習を繰り返し、一通り覚えて退院しますが、実際に自宅でケアを行うと「これはどうやったろう?」と疑問を抱えたり、入院中はできていたことが自宅ではうまくできず、不安を抱える患者さんは多くいます。

ストーマ造設術後から始まる長い道のりをともに歩み、疲れた時にほっとひと息つける場所になればいいなと思います。外來でのストーマケアを行っています。

ストーマケアの不安や疑問、相談するほどではないけれど聞いてほしいことがある!など、お気軽にお声がけください。



ハッスル研修医

今年の抱負

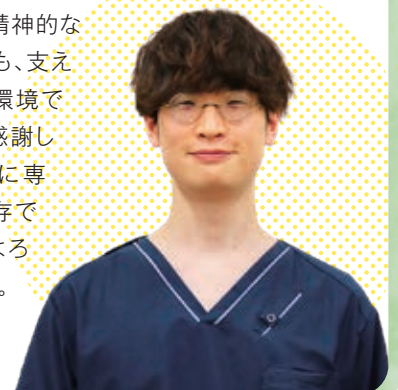
初期研修医 1年目

秦 剛志 はた ごうし

新年あけましておめでとうございます。兵庫県生まれで、高知大学入学を機に高知に来ました。高知の食や文化、人の温かさに惹かれ、高知に就職することを決意しました。特に近森病院での研修内容に惹かれ、研修医として研鑽を積ませていただいております。

入職後は消化器内科、麻酔科、循環器内科、総合内科で研修をさせていただきました。病棟や外來で患者さんと対面する中で、医学的知識が求められることはもちろん、日々変化する患者さんの状況に加え、社会的背景や個人の意思に対応する臨機応変さが求められるため、本や授業での勉強だけでは当然足りず、自分の至らなさを思い知らされる毎日です。

医師としても社会人としても、まだまだ未熟な自分ですが、情熱的な先生やスタッフの方々から、精神的な面でも仕事の面でも、支えていただいている環境で研修できることに感謝しつつ、日々の業務に専念して参りたい所存です。今後とも何卒よろしくお願い致します。



近森会グループで元気に働く仲間を紹介します



MVP受賞者には記念の
バッジが贈呈されました。



12月8日、今年度のMVP受賞者が発表されました。感謝の言葉と一緒に豪華副賞が贈られました。受賞者の皆さん、おめでとうございます。

近森病院 理学療法科 本館Aチーム(6C病棟PT) (写真左)

近森病院 理学療法科 北館Bチーム(北館3階病棟PT) (写真右)



2023年1月、新型コロナウイルス感染症の大規模なクラスターが発生した際、フルPPEを学習し、全病棟から集まる陽性患者に、1か月で延べ556回の訓練をレッドゾーンにて実施し、ADL維持・改善に努めた。



画像診断部
診療放射線技師
西田 和弘

MRI安全管理委員会資料や災害対策マニュアルなどにおいて、“MRI検査において適切な安全管理が行えるよう具体的な管理方法の提示”を実現。また磁気共鳴専門技術者の資格取得や、学会発表など自ら積極的に活動した。



診療支援部
施設用度課
小谷 竜也

現場を理解し書類では説明しづらい部分も汲み取り、手早く段取りし、担当以外の相談事にも気持ちよく対応した。



株式会社SEED
岡本 卓也氏

新型コロナウイルス感染症の陽性者が使用した病室の滅菌作業と環境維持について時間外や休日も含めた柔軟な対応を行い、感染対策と円滑なベッドコントロールに貢献した。



近森オルソ
リハビリテーション
病院 管理部
松本 圭司

法人合併による事務手続きや内科系患者の受入れのために、医療ガス増設や医療機器の導入によるメーカーとの調整などに迅速な対応をした。



チーム
受賞

診療支援部 企画課

見るだけでわくわくする装飾やアイデアで各種イベントを盛り上げ、成功へ導いた。対応もいつも笑顔でとても癒された。



チーム
受賞

四国管財株式会社 クリーンキーパー

2020～2023年の4年間、新型コロナウイルス感染症の掃除全般において感染制御部の指示に従い、迅速な清掃作業を行い、現場を多大にサポートされた。



チーム
受賞

高知ハビリテーリングセンター 生活・訓練部 自立支援／機能訓練チーム

様々な機能障害のある利用者一人ひとりの“自律”を叶えるための伴走型支援を提供。訓練評価指標のSIM調査に協力し自分たちの支援を分析し可視化する取り組みや、利用者の安心・安全を守るため、通所利用者のプレステックラウンドを企画した。



チーム
受賞

しごと・生活サポートセンター ウェーブ 就労継続支援A型事業オウパス 特定相談支援事業所

利用者の一般就労を目標に掲げ取り組み、様々な働きかけにより2023年9月に2名の一般就労を実現させた。他の利用者にも良い影響が出ている。



患者
アンケート
上位

近森病院 理学療法科 理学療法士 今城 有加里 (写真左端)

「私に合ったリハビリの提供」「心から心のケアを受けた」「面会ができない今、家族への電話にも配慮してくれた」「おかげで笑って過ごせた」

患者
アンケート
上位

近森病院 5C病棟 看護師 西村 琉亜 (写真左から2人目)

「笑顔が明るくハキハキしていて元気をもらった」「的確確実の申し送りができている」「とても小さいことまで気がつき感心した」

患者
アンケート
上位

近森病院 整形外科 医師 井ノ口 崇 (写真右から2人目)

「終始丁寧な説明で、安心して治療に臨めた」「頑張って手術をしたいという気持ちになった」「手術中の痛みにも都度対応してくださり、術後の治り方にも感動した」

患者
アンケート
上位

近森病院 循環器内科 医師 小松 洵也 (写真右端)

「具体的な説明が良かった」「不安な気持ちや和らげ労わってくれた」「痛みもなく、手術中に励ましてくれるなど安心した」「よく病室に来てくれる」

ハート
センター

近森病院 医療福祉部 ソーシャルワーカー 小川 明希 (写真左)

集中治療室入室早期から患者・家族の抱える問題の解決のために尽力し、困難な症例にも積極的ににかかわり大きく貢献した。

ハート
センター

近森病院 臨床工学部 臨床工学技士 北川 寛久 (写真右)

新しいTAVIデバイスのクリッピングや緊急手術のIMPELLA挿入患者のリハビリなどに積極的に取り組み、多職種との連携が円滑に行えるよう多方面にも気を配りながら調整をした。



リレーエッセイ

未来の諺?

ことわざ

画像診断部 診療放射線技師

唐津 公一 からつ こういち



子供の頃は釣りといえば、釣れてもハゼや大きくてセイゴ(スズキの子供)位のものでした。ましてや子供だけで行くと小川のナマズや名前の分からない小魚。それでもとても楽しかったことを覚えています。

今はもう二児の父となり、釣りも宇和島の義実家に行った際に、船で沖合に出て鯉や鯛、鯖等を釣ったり、子供を連れて釣り堀に行ったりなど嗜む程度ですが、変わらない楽しさがあります。

『一時間、幸せになりたかったら酒を飲みなさい。

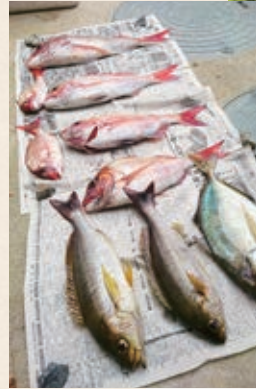
三日間、幸せになりたかったら結婚しなさい。

八日間、幸せになりたかったら豚を殺して食べなさい。

永遠に、幸せになりたかったら釣りを覚えなさい。』

とは芥川賞受賞作家、開高 健の著書で中国古諺として紹介された一文ですが、実は中国にはそのような諺は実在しないようです(似たようなのはヨーロッパにあるそうですが)。

ですが今のところ実感として真実なので、未来で本当に諺になってそうで面白いですね。



私の趣味

あの映画の世界で癒やされよう!

近森病院 SCU病棟 看護師 中山 佳胡

なかやま かこ



皆さんはジブリ作品が好きでしょうか? 私の趣味は、ジブリ作品に触れることです。友達からもらった誕生日プレゼントをきっかけに、夢中になりました。

とくに好きな作品は、「千と千尋の神隠し」です。普段アニメを見ない私も、ジブリ作品はテレビで見たり、見返したり。子どもはもちろん、大人もハマるジブリ作品。かわいいキャラクターや感動するストーリーは、何度見ても楽しめます。

そんな作品を楽しめるショップやカフェが全国に点在しています。最近では大阪で巨大なトロロに会うことができ、癒やしの時間でした。四国では高知のみで開催されている「ジブリパークとジブリ展」へ行くことがとても楽しみです。どこか懐かしく、やさしく温かい気持ちになれるジブリ作品に、一緒に癒やされましょう。



FREE

まるまる 私の○○

○○にフリーワードを入れて語っていただきました

私の「好きなこと」

近森リハビリテーション病院 理学療法科 理学療法士 山崎 颯

やまさき はやて



切っ掛けは幼い頃、友達と遊ぶ中でゲームやPCのインターネットを使用していたことが始まりでした。年齢を重ね友達と遊ぶ機会が少なくなった現在でも、長年続いている趣味です。

ネット技術の発達に伴い、インターネットを介して他者と遊ぶことや仕事に関する知識を調べる、勉強会に参加することなど、自宅に居ながらも様々なことができるようになり、気が付けば長時間モニターの前に座っていることも珍しくありません。ゲームやPCの設定を考え、あっという間に小一時間経過していることも…。

日々、PCやゲーム技術も進歩しており、新たなPCやゲーム機、周辺機器、ゲームソフトなどが販売されると、満足できる環境を求めて、既に持っているものと似たようなものでも、性能が違えばつつい新たな機材を買ってしまいます。私の数少ない、時間を忘れて夢中になることができる趣味です。

歳時記



クリスマスの象徴、ツリーがお目見え。
華やかな飾りつけに楽しい気分になりました。

クリスマスツリー

手足のスタンプで作ったよ!

保育室「そると」の応援ポスター



職員募集中!

募集職種

- 医師
- 看護師
- 介護福祉士
- 救急救命士
- 理学療法士
- 作業療法士
- 言語聴覚士
- 薬剤師
- 臨床検査技師
- 事務

詳しくは、近森会グループHPの採用ページをご覧ください。



3000通りの誇れる仕事



「安定経営の力はスタッフのおかげ」と、下期ボーナスは3か月に3万円プラス!



看護学校通信

統合看護実習を終えて

実習期間 / 2023年11月2~24日

近森病院附属看護学校
3年生

石邑 優季・岩下 愛

いしむら ゆうき いわた なるみ

統合看護実習では、複数の患者さんを受け持ちケアの優先順位を考慮すること、看護チームの一員として動くことやチーム連携について学びを深めました。多重課題では急遽検査や発熱などの対応で優先順位を変更し、柔軟に対応する力が必要だと体感しました。

また、看護チームはもとより多職種と連携を取ることが、より良い看護の提供や異常の早期発見、回復の促進につながると再認識しました。

指導者さんは自身も業務をしながらの多重課題の中、丁寧にわかりやすく説明してくださり、新たな発見・知識がつかえました。来年度から新人として働きだす時、今回の実習を忘れずに切磋琢磨していきたいです。



実習がすべて修了し白衣を着るのも最後、これからは国試に向けて一直線!

編集室通信

最近、買い物に行くと、セルフレジで会計をする機会が多い。最初はセルフレジを使うか不安であったが、一度会計が出来ると、待ち時間もないので今では普通にセルフレジを使っている。その帰り道に道路脇の良心市でお金を入れた時にあることに気づいた。良心市もセルフレジで、以前からセルフレジを利用していたことを。 つつじ

診療数

令和5年11月

— 電子カルテ管理課 —

● 近森会グループ

外来患者数 16,626人
新入院患者数 1,127人
退院患者数 1,138人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数 11.41日
地域医療支援病院 紹介率 103.13%
地域医療支援病院 逆紹介率 339.07%
救急車搬入件数 636件
うち入院件数 364件
手術件数 575件
うち手術室実施 366件
うち全身麻酔件数 252件

野島のぞみ

Nozomi Nojima

臨床工学部 保守管理センター
臨床工学技士(ME)
透析技術認定士

聞き手／ひろっぱ編集部

昨年、息子さんの看護をきっかけに腎透析センター(透析室)の主任を降り、保守管理センターに異動した野島さん。「生活はガラリと変わりました」。緊張していると言いながらも、明るい口調とにこやかな表情で、働き方や思いを語ってくれた。

患者さんと心を通わせて

「透析室では、隔日透析を行う患者さんと家族同様、顔を合やす時間が多いですからね。長い間関わっていく中で、情が湧いて親子ゲンカみたいになったこともあって」。自己管理の現状について聞き取りが必要な患者さんに対して、つい言い過ぎてしまうこともあったようだ。

一方では、縁あって患者さんと一緒に船釣りに参加したり、マニキュアが得意な方に披露宴での付け爪をデザイン制作してもらったこともあるという。患者さんの個性や暮らし方も配慮し、良好な関係を大切にしてきた野島さんらしいエピソードである。

「頭の中が仕事に関することっていっぱい『仕事人間』でした」。辛いこともたくさんあったが、やりがいに満ちていた。

透析室から保守管理センターへ

状況が変わったのは1年半前。当時2歳の息子の顔が腫れぼったく感じた。心配になり小児科を受診すると即入院。幼い子どもとの長い入院生活が始まった。さらに退院後も急な呼び出しや再入院などで休みは続いた。主任としての責任が果たせていないのではと悩み、スタッフに心配をかけること

に心苦しさが募っていった。

一度は辞めることも考え上司に相談すると、保守管理センターへの異動を提案された。子どもの体調不良など急な呼び出しにも調整がしやすいとの配慮があった。

縁の下の力持ちという自覚

現在、保守管理センターではID登録をしているだけでも3,000台以上の医療機器管理をME数人で回す。「今まで当たり前のように使っていた機器はMEの保守メンテのおかげであったことを実感。私たちが目立たないことが、病院の安全が保たれている証拠かなと。まだまだ分からないことも多く、やりがいを語れる立場ではないですね。機器や医療ガスについて研修会などにも参加して、知識や技術の習得に努めたいと思っています」と意欲を示した。

家族や友人と音楽会を

中学、高校と吹奏楽部に所属しホルンを担当。南高校時代、マーチングで金賞を受賞したのは良い思い出と語る。「文系なのにジャージに着替えて、涙の合宿がね…」と当時の先輩の不条理なしごきを臨場感たっぷりに語る。一方、夫は元バンドマン。そんな二人のお子さんが今はまっているのは、歌手になる夢を叶えるために奔走する映画『SING2』。「おもちゃのギターで真似事をしたり、映画の歌を熱唱したりしています」と嬉しそう。そんな野島家の夢は、家族で音楽会を開催することである。

仕事と育児の
はざままで、
今が人生の分岐点

「あなたは、そのままでいい」

つい先日、息子さんが全ての薬を卒業し、野島家はようやく穏やかな生活を取り戻した。今の思いを問うと「仕事も頑張りたいが、子どもとの時間を大切にしたい」と悩みは現在進行形。

野島さんは、専門学校卒業直前に実父が他界し学校に通えなくなった。その時は、毎日ノートを届けてくれた友人のおかげで卒業できたという。いつも一生懸命で、会話中にはちょこちょこボケて、周りを笑わせるお茶目な彼女と、みんなと一緒に卒業したかったに違いない。そして近森病院でも、一緒に働きたいと思わせるスタッフなのだと感じる。

エピソードの中に、透析科の医師で臨床工学部の部長だった、今は亡き近森正昭先生の思い出話もあった。悩んでいると正昭先生から、「あなたは、そのままでいい」と言われたそうだ。素晴らしい誉め言葉である。

本人が自覚されている頑固さや真面目さ、そして少しお節介なところも含めて先生は魅力と捉えられていたのではないだろうか。



左/南高校時代、文化祭では衣装を着てマーチングを披露した(手前右から2人目)。右/3歳にしてギターに目覚める長男君と夫。

